

福岡市議会議長
阿部 真之助 様

須崎公園の再開発に伴う 大木伐採の中止を求める請願

3月は桜並木、4月～5月は輝くばかりの新緑、夏は葉を茂らせた大木の間をぬける風が都市の汚れた空気を浄化し木陰が人々の憩いの場を提供してくれる須崎公園は、素晴らしい自然環境を維持する貴重な存在ですが、新たに建設される新市民会館と駐車場工事のために、樹齢50～60年の大木約70本を含む400本の木々はほぼ伐採され残る木はたった17本となります。

福岡市は平成21年に策定した「新・緑の基本計画」の中で、「福岡が持続的に発展していくためには、福岡の持つ特性を生かしつつ、経済性、効率優先だけではない都市づくりを進め、「都市の中に緑を創る」という発想から転換した「緑の中に都市がある」姿を目指さなければなりません。」と語っています。この素晴らしい理念を掲げる福岡市が須崎公園の木を殆ど伐採する矛盾に対して、私達は到底納得出来ません。理念を優先し「緑の」大木を残すために、「拠点文化施設の現地建替え」や「現市民会館の駐車場をそのまま使用」等の選択肢もありえたはずです。

また、公園の災害時の避難場所としての機能、入札が複数社ではなく「一社応札」になった経緯、市民会館のガラス張り設計について等、市民として疑問や質問がたくさんあります。

- 1, 工事着工を延期し、今一度じっくりと市民の意見に耳を傾け、よりよい須崎公園の未来の姿を一緒に考える機会を作ってください。
- 2, 市は「新・緑の基本計画」で市民から「都心部での緑の満足度が低下」との指摘を受け、緑を増やすことの重要性を認識しています。
しかし、実際は市民会館建設工事の邪魔になるからと、市民の財産である大木を多数伐採して、代わりに新しく樹木を植えればよいという安易な考えが見受けられます。温暖化危機が叫ばれる現代にあって、「緑の中に都市がある」という福岡市の高い志と、目標姿勢をしっかりと守ってください。

須崎公園の大木を守る会

